

女性技術者が 入るために 働き続けるために ……どうする？

～女性の活躍にむけ、働く私たちからのメッセージ～

●2013.11.1 第1回女性技術者会議 ●2014.4.18 第2回女性技術者会議

2013年度女性技術者会議を開催しました

日建協では、建設産業におけるワーク・ライフ・バランスの推進には女性の視点を活かすことが必要と考え、2009年度より女性技術者会議を開催しています。

2013年度は「女性技術者が増えるための課題」をテーマに、「入職するための課題」と「働き続けるための課題」に分けて、個人ワークとグループ討議を行いました。

1回目の会議では、その「課題」について抽出し、2回目の会議では、その課題解決のための関係者も想定し、より具体的な「解決策」を導き出しました。ここでは、女性技術者会議で出された意見をご紹介します。



内閣府よりご挨拶

男女共同参画局推進課
仕事と生活の調和推進室 赤塚推進係長



本日は、建設業で働く女性技術者のみなさんの実状についてうかがい知り、今後の施策に活かすべく、活発な討議を期待しています。

内閣府では「男性も女性も意欲に応じてあらゆる分野で活躍できる」ことに向けて取り組んでいます。また、ホームページでは女子学生向けに理工系への進路選択応援サイト「理工チャレンジ」を運営しています。建設会社で活躍している女性からのメッセージを是非ともみなさんから発信してください。

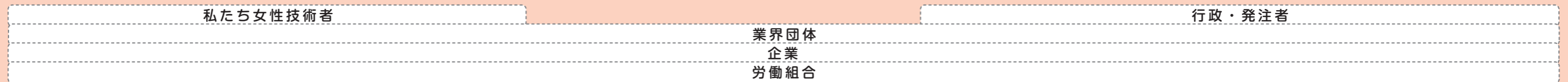


入職するための

課題	作業着や安全靴に魅力がない。作業着や安全帯が女性の体に合わない。	入職前に建設業での働き方が分からない。建設業で働く技術者や入職希望者をつなぐ機会が少ない。	女性技術者を活躍させたいのか、増やしたいのか見えずらい。	入職時点で男性の方が圧倒的に多い。	現場の実態が分からない。女性や学生にとって身近でない。	若い世代に建設産業が正しく理解されていない。ゼネコンを知らない。	建設業自体のイメージが悪い。男性社会のイメージが強過ぎる。
解決策	女性用サイズや機能性、デザイン性の好事例を他社に情報展開していくべき。	現場見学会や出前講座など、業界団体や日建協などが主導して機会を設けるべき。講師募集などあれば、*ゼネコン女子会としても協力していきたい。	企業として姿勢を示すべき。ロールモデルの提示など、女性活躍にむけた意思表示を行うべき。	採用の考え方と方法を変えるべき。女子学生向けには、女性が参加しやすい説明会として建設産業全体で共同開催するなど、開催方法を工夫すべき。	メディアや企業ホームページなどで現場見学会の開催などを掲載し、窓口を広げていくべき。	親子や小中学校の社会科見学会を対象とした現場見学会を開催したり、出前講座や防災教育などで若い世代にPRしていくべき。	メディアによるイメージアップをはかるべき。情報番組やテレビドラマ、CM、ゲーム、キャラクターなど、もっと社会にPRしていくべき。

*ゼネコン女子会：ゼネコン各社に勤務する女性職員の有志が集まって発足した会のこと

関係者



働き続けるための

課題	相談できる同職の先輩後輩同僚が少ない。	ロールモデルが極端に少ない。過剰な配慮をされる。	配偶者の転勤時に辞める場合が多い。	評価・昇進スピードに男女間の差があるとモチベーションが下がってしまう。	出産などで休職する場合でも職場人員が不足しており、安心して任せられない。	拘束時間が極端に長く、子育てをしながら働ける環境でない。	休みが少ない。現場優先で、働く時間に融通が利かない。プライベートがほほない。	子供の保育園がなく、職場復帰できない場合がある。	女性の特性を活かせていない。	
解決策	産業全体で女性のネットワークを広げていくべき。先輩の相談に乗ってあげられる環境を整えることが大事。	ホームページ等で先輩の人生紹介をすべき。会社として、女性部下を持つ上司への指導者教育をしっかりと行うべき。	技術や職種がどこでも通用するような人材を目指し、新しい仕事、働き方を見つけていくべき。	配偶者転勤後も働き続けられる制度、環境を作っていくべき。	公平公正な評価をすべき。	フォロー体制を整え、企業がプラス1の人員配置をして一人ひとりの負担を減らすべき。	週休2日制を当たり前にする。勤務時間に縛られない働き方を可能にして、業界のあり方を変えるべき。	休日取得のために、入札条件に「週休2日」を課す。 低価格や短工期受注をしない。 土日稼働、24時間稼働という現場は、発注者も含め考え直していくべき。	会社や現場に保育スペースをつくるべき。ベビーシッター補助金制度や保育園斡旋など復帰しやすい制度、流れをつくるべき。	女性が多く利用する建物のプロジェクトには、メンバーに女性を多く配置するなど、活躍できる場を考え、実行に移すべき。

2013年度 女性技術者会議参加者 (敬称略、50音順)

女性技術者委員：飯塚公子(東鉄労組)、石坂嘉名代(大和小田急労組)、今井暢子(安藤ハザマユニオン)、上野尚佳(戸田職組)、榎園彩(奥村職組)、大倉紀子(銭高労組)、木本菜実(西松職組)、工藤恵美子(飛鳥労組)、小山敦子(シミズユニオン)、澤村淳美(戸田職組)、高岡怜(三井住友社組)、高橋杏菜(アサマユニオン)、田邊麻由子(三井住友社組)、二村奈央子(安藤ハザマユニオン)、浜住美香(佐藤職組)、富士本佳亜(フジタ職組)、藤本景子(西松職組)、藤原亜紀子(三井住友社組)、村松千香子(戸田職組)、門馬友理子(ペンタユニオン)、山口泉(シミズユニオン)

来賓：内閣府 赤塚真弥子、一般社団法人日本建設業連合会 田中規博

オブザーバー：王婷婷(東洋大学理工学部建築学科)

マスコミ：日刊建設通信新聞社、日刊建設工業新聞社、日刊建設産業新聞社

女性技術者会議を終えて

建設産業は他の産業に比べ女性の進出が遅れています。しかし、女性技術者が活躍できる場面はたくさんあるはず。国や業界団体も本気で取り組みを始めています。私たちみんなで、女性にとって働きやすい職場環境を目指して行きましょう。それは結果として、誰にとっても働きやすい環境につながってくるはず。

今回出された課題解決策の中には、各企業で努力すべき問題の他にも、一企業では解決が難しい構造的な問題も多く含まれています。日建協では、いただいた意見を今後も国や企業、そして関係諸団体に対し、しっかりと発信していきます。

※国土交通省への提言により、国土交通省の策定した「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」の具体策にその多くが盛り込まれました。